



## かわる「教育」

### 小中高生が身につけておくべき力とは

変化が激しい多様な社会で、子どもたちが活躍するために、今後どのような力が必要になってくるのか。また、そうした力はどういったように身につけることができるのか。

大学入試改革の方向性や今後の展望を含め、元灘中高教頭、  
現立命館大学稲盛経営哲学研究センター副研究センター長 倉石先生にお話を伺いました。

**2020年、日本の教育が大きく変わる  
といわれていますが、どのように変わる  
のでしょうか**

日本では、現在、少子高齢化による労働人口の急減やグローバル化など激動の時代を迎えています。職業のあり方も大きく変わると予想され、子どもたちが社会に出る頃には、今は存在しない職業に就く可能性が高いと考えられます。このような変化が激しい社会を生き抜いていくには主体性を持って様々な人々と協働しながら、問題を発見し、その解決を見出し実践していく力が求められています。それには、「考え、判断し、伝える」プロセスと、何よりも学習者が主体となる学びが不可欠なのです。このような時代の要請の中、高校教育・大学教育・大学入学者選抜の三位一体となった教育改革が打ち出されたのです。

**「大学入試改革」において、具体的に何が  
変わるのでしょうか**

知識を中心と問われていた入試から、「思考力・判断力・表現力」を問う入試が変わっていきます。「正解」のないこれからの社会を生き抜いていくためには、十分で深い理解に基づく知識や技能を持ち、それらを活用しながら、みずから課題を発見し、他者と「コミュニケーション」をとりながら解決策を導き出す力が必要です。その中心となるのが「思考力・判断力・表現力」です。そうした力を大学でもしっかりと育成していくために、その入り口である大学入試でも問う、という流れになっているのです。具体的には、次の点が構想されています。

**◆センター試験が変わる**

現中2が高3になる2020年より、大学入試センター試験に代わり、思考力判断力表現力を中心に測るための2つの新テスト（高等学校基礎学力テスト（仮称）・大学入学希望者学力評価テスト（仮称））が導入されます。

**◆受験方法が変わる**

受験方法がこれまでの筆記形式やマークシート方式から、CBT（Computer Based Testing）を前提とした方法に変わり、数学と国語に論述式が導入される予定です。

**◆個別選抜が変わる**

小論文、面接、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、資格・検定試験などの成績、各種大会などでの記録等、多面的総合的な評価の導入が検討されています。新聞でも報道されましたが、秋からのAO入試に学力が入ります。これは、高校時代での学術や運動・社会活動などの成果を評価する試みです。

**では、どのような力をつけておく必要が  
あるのでしょうか**

今、進められている改革の議論は、大学入試にとどまらず、小・高校の教育内容を含めて全体で議論されており、小中学校での授業やテストも変わっていくこととなります。とは言え、知識・技能が必要でなくなるわけではありませぬ。知識・技能を活用しながら、思考力・判断力・表現力を問うような問題が重視されるようになるのです。また、各大学で行われる個別試験では、「主体性・協働性・多様性」といった、テストでは測りにくい能力も問われるようになります。今後ますますグローバル化する社会の中では、外国人を含めた多様な価値観をもつ人々と協働しながら

課題を発見し、解決していくことが求められるからです。そうした能力はペーパー試験では測りにくいですが、講義を聴いてのレポート作成、小論文、プレゼンや集団討論、面接などで評価していくこととなります。つまり、問われる能力自体も多様化・多元化しているのです。

**どうすれば必要とされる資質・能力が  
身に付くのでしょうか**

知っていることを使ってどのように社会と世界と関わり、よりよい人生を送るかという観点から、総合的な資質・能力を育むためには、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶアクティブラーニングの視点から授業が変わってきています。アクティブラーニングの授業や取り組みをしっかりとこなしている小中学校の児童・生徒の学力は高いということが、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」の結果にも表れています。今後は高等学校においてもさらに普及を目指し、生徒一人ひとりが学びや成長を実感できる授業展開の工夫が期待されます。

今後必要とされる力は、学校の授業だけで修得しきれぬものではありません。日々の授業に加え、部活動や生徒会活動、ボランティア活動など様々な「社会に通じる学び」で培われる必要があります。地域社会と関わる取り組みについての例としては、まちづくりと連携した商品開発の企画に生徒が取り組み、地域や企業の方といった第三者が評価を行い、その評価が大学進学につながる仕組みとした例もあります。子どもたちは、地域や社会とつながる取り組みをする中で、共感の中から様々な力の必要性を実感し、目的を持って自ら学ぶので、モチベーションがあげられます。さらに、どうやって学ぶか、物事をすすめるかを自分たちで考えます。また、一人では解決できなかったため、協力するようになり、このよう

これからの新たな取り組みや展望など、  
お聞かせください

私が副研究センター長をつとめる立命館大学稲盛経営哲学研究センターでは、稲盛和夫氏の経営哲学の根幹ともいえる「利他の心」をはじめ、理念経営、アメーバ経営の思想と手法を起点にして、学びのモチベーションの向上、次代を担うリーダーの育成、教育方法のり・デザイン、教育組織の開発に取り組み、学校・地域・企業とともに新しい学びの創造をミッションとしています。その一つとして、福島・天栄村の田んぼ再生プロジェクトに高校生や海外留学生が参画した取り組みを紹介いたします。原発災害というグローバルで重い課題に対して、ローカルな視点からフィールドワーク、質疑応答、グループワークそして農家での民泊等を通じて、学生たちはプロジェクトの全体像を把握し、若者、よそ者の視点で解決方法の提案を行いました。学生たちは、地域やグローバルな課題に取り組む人々に学び、課題解決に参加し、自分の生き方・学び方を見つめなおす機会となりました。

学ぶ意欲は、現場から生まれます。自分を支えてくれる人の気持ちに添えたい。自分の努力で、誰かを笑顔に、幸せにしたい。そうした「つひとつ」の思いが、テストや受験に留まらない、主体的な「学び」の原動力となります。将来的には、このような学校・地域・社会が連携した取り組みがさらに充実し、厳しい時代を生きる若者が夢を抱き、実りある人生を送ることができ、社会が実現することを願っています。



PROFILE 倉石 寛(くわいひろし)氏

長野県生まれ。東京大学文学部卒業後、灘中学校高等学校に日本史および倫理・社会の教員として入職、1998年灘中高教頭。兵庫県私学の副校長兼教頭会会長、私学審議会委員を歴任。2011年4月～2016年3月、立命館大学教授。立命館一貫教育館大学教育研究センター長を経て、現在、立命館大学稲盛経営哲学研究センター副研究センター長。

# かわる「授業」

## ～大阪初芝学園の取り組み～

主体的に学び続ける姿勢を育てるため、教室は、いっそう学習者中心の空間へと変わりつつあります。「考え」「判断し」「伝える」プロセスを取り入れ、子どもたちの知識の活用を目指す授業を日々実践している先生方を紹介します。



### 答えのない問いを捨てないで 将来つながる日がきつとくる



三井智世 教諭  
初芝立命館中学校・高等学校  
国語 中3

私が思うアクティブラーニングとは、こちらが与えるだけではなく、与えたものを基にして、生徒が頭を使って考えて答えていくものです。ですが、課題に正面から取り組み、きちんと答えを出せるようになるまで行くには、オーソドックスな形式での読み取りが必要です。たとえば小説の場合、その人物像は必ず押さえておかななくては、課題の軸になる人物の変化を読み取ることはできないわけです。そこについては本文からきちんと情報を挙げることを優先します。それがなければ、課題に対してきちんと思考することができませんから。

文章のある部分を読み、「考えてみましょう」とか、「みんなの前で発表してみましよう」などの活動はすべて練習で、それがあから、自分が一人で生きていくようになったときに、できるようになるんじゃないかと思えます。

中2「走れメロス」の授業では、大きな課題を2つ用意しました。生徒は、本文を頭から順番に読んでいったあと、この課題についてディスカッションを始めます。つば、「メロスは、(どこで)勇者になったのか」。もう一つは、「走れ！メロスの一文を取り上げて、「何が走れ」と言っているのか」。その根拠もあわせて考えてもらいました。

私からの問いは、二つの答えに決めることができずともあれば、できないものもあります。もし答えがないというか、根拠がどれも妥当な場合、一つにできないまま持つておくことも大事なことだと思えます。はっきり答えが出ないことにはいら立ちもあるかもしれないけれど、それを「走れメロス」の作品の中で持つていたら、いつか大人になつたときにいろいろなものにつながるのではないかと思います。答えのない問いに対して、だから捨

ててしまうのではなくて、どこかでつながる日が来るのではないかと思えます。

### 社会の学習を通じて ものごとを客観的にとらえる 批判的思考力を



番匠良雄 教諭  
初芝橋本中学校・高等学校  
社会・地歴 中1

新しい時代を生きていく生徒たちに求められている力とは、「生きる力」すなわち課題発見探究・プレゼン能力です。それは、今取沙汰されている大学入試制度改革の方向性にも表れており、そうした力を引き出すことが自分の役目だと思つていきます。

大学受験では多くの知識が必要なのはいうまでもないのですが、一方的に知識のシャワーを浴びせるだけでは、時代の要求に対応できません。私の授業では、生徒を自発的な思考へ誘導するよきな言葉を絶えず投げかけて、自分の力で答えを見つける機会を盛り込みながら、進めていくようにしています。

真田幸村で今話題になっている「大坂の陣」について以前学習した時は、生徒といっしょに大坂の陣の布陣図から、大坂城の攻め方を考えてみました。私と生徒たちとの問答がしばらく続き、この鉄壁の城のわずかな攻め口にみんなでたどりついた時は、そこにまつわる人物や社会の理解が平面的なものから立体的なものになりました。最近では電子黒板を使い、画像や動画なども手軽に見せてあげることができるようになりました。今まで文字だけで理解していた人物も生きた実像として提供できるようになったことは、彼らの主体性を引き出す上で大きな前進です。

中学生の場合は、「社会」という教科の考え方を体得させ、高校でのより専門性の高い学習に備

えておかなければなりません。もう少し視野を広げて、社会という教科を通して、ものごとを客観的・科学的に捉え、批判的に見る力を習得してほしいと考えています。そうした力が身につけば、学校生活も違ってくるのではないかと思えます。

### 電子黒板の活用 濃密な授業を目指して



道嶺 宏悦 教諭  
初芝富田林中学校・高等学校  
数学 高1

数学の授業を「読む」「書く」「聴く」という三つの学習活動に分けると、「読む」「書く」は自宅でもできますが、「聴く」というのは授業中しかできません。ですから、私はその「聴く」部分を授業のメインにしたいと考えています。ところが、説明に入るために下を向きがちになります。最近、電子黒板を活用していますが、生徒が視線を上げ、私が生徒の理解度をその表情から読み取るためには、とても有効です。また、従来なら、私が板書していたグラフなども、電子黒板で写せば、瞬時ですから、授業の核心に入るまでの時間が短縮され、その分、そこに書き込みながらより丁寧な説明を加えていきます。生徒が、不要なストレスをなるべく感じずに、より「聴く」ことに集中できるようにあれこれ工夫しています。

彼らの基本的な理解がスムーズにいけば、それだけ、問題練習の時間をしっかりと取り、一人一人の理解度に合わせて、手助けすることにより多くのエネルギーを向けることができます。授業の時間が、それぞれの生徒にとって濃密な時間になるようにしていきたいと考えています。

今後、大学入試は、思考力をはかるものにシフトしていくといわれています。数学記述問題の場合

は、白紙状態の解答用紙に、自分でストーリーを組み立てる力がより問われていくわけです。答えが出るまでの論理展開や途中の計算式が評価されるのは、数学の世界では、実は従来から変わりありません。3年生では、さまざまなアプローチができる問題に挑戦する機会を増やしていきたいと考えています。数学は、基礎の定着が鉄則です。先々、数学的な思考ができるようにしておくには、やはり高1・2で基本をしっかりと身に付けておくことが大切です。

## 伝えたい、伝えられない—— もどかしさが英語学習の原動力



三井 淳美 教諭  
初芝立命館中学校 高等学校  
英語 中3・高1

高校1年生の英語表現の授業では、指示も説明もすべて英語、オールイングリッシュで行っています。コミュニケーション英語Iで習ったことを、そこで終わらないように、意見を言う、ディスカッションやディベートをする、自分の考えをまとめる、何度も練習して発表するなど、どんどん使ってみるという主旨で行っています。彼らには今、あえて二方向的に英語のシャワーを浴びてもらっています。一生懸命、英語で聴き取ろうとする集中力の中で、リスニング力が高まり、主体的に授業に関わることができるようになります。その子たちが自分からやり始めるのを待つという姿勢でなければなりません。

英語のディベートでも、日本語禁止。生徒たちは言いたいことがあっても、英語でうまく言えないと、ジャッジで負けてしまう。「日本語だったらいい言えるのに」という悔しさを多くの生徒が感じるようで、「もっと英語で言えるようになりたい」という感想が最後に残ります。これは短期で

海外留学を経験した生徒たちにも言えることで、伝えたいことがあるのに、伝えられないもどかしさ、悔しさがもつと英語を勉強したいという気持ちにつながっていきます。

日本では、英語を使わなければならない場面はそれほど多くありません。自国を離れ、UBCなど海外の大学で学ぶ留学生たちは、それぞれ独特のイントネーションの英語でコミュニケーションをとっている。そこでは、どんなにすぐれたアイデアがあっても、英語で伝えることができなければ、それを活かすことができないわけです。英語を話さなければならぬ場面、心から伝えたいという場面をつくり、どれだけでもどかしさを感じさせてあげられるかが、私たち英語教員の腕の見せどころではないかと思えます。

※UBC：ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)。初芝立命館で毎年3月に行われる留学プログラムの実施校

## 子どもたちの意見をつなぐ—— 可能性を引き出す グループ・ペア学習



岡田直也 教諭  
はつしほ学園小学校  
6年

私が取り組むグループ・ペア学習は、授業の最初に私が提示する課題について、まず話し合い、クラス全員での課題共有、そして答えの発見という手順で進んでいきます。児童一人一人が、それぞれ自分のペースで進めていくことで、深い学びが実現します。

先日の「江戸時代の文化」の授業では、「伊能忠敬が書いた日本地図」「それ以前の日本地図」「現代の日本地図」の3つの資料を、子供たちにまず渡しました。すると児童は「なぜ」「どのようにして」「この地図が作られたかに疑問を持ち、その答

えを教科書や資料集から探します。ここから彼らは、江戸時代の歴史的背景や新しい技術、さらには伊能忠敬の地図作りの動機というところまで一気に考察を進めていきます。

この学習をはじめから私の役割は、説明することから、彼らの考えをクラス全体につなぐことに変化していきました。私が発する言葉が徐々に少なくなるにつれて、児童の発言や、話し合う場面がぐつと増えていることに気づきます。取り組みはじめた頃は戸惑っている子どももいましたが、授業の流れを理解すれば、私は冒頭に簡単な説明をするだけで、ほとんど自分から学習を進めていけるようになっていきます。最終的には、課題を渡すだけで子どもたちが取り組みという状態が理想です。

他のグループの意見を真似するのではなく、そこからさらに独自の意見へと発展させていくような流れもできてきました。彼らの中から、自然に「まねるだけではつまらない」という文化のようなものが生まれているわけです。発表内容にも、変化が見られます。彼らは、なるべくクラス全員の納得を得るために、資料に基づいた説明を意識す



るようになり、こうした変化を見ていると、彼らの無限の可能性が実感されます。

## 主体性を育てる 講義型授業からの脱却



小本 眞一 教諭  
初芝富田林中学校 高等学校  
社会・地歴総合学習 中2

思考する力そのものを問う新しい入試への転換にむけて、「課題を主体的に解決する力」「無から有を生む想像力」「優しさや慈しみの心」を育てるためには、まず従来の講義主体の授業からの脱却が必要です。そこで、昨年は、さまざまな機会を設け、課題解決型の学習に取り組んできました。1年間続けたことで、発言することや、人の話を真剣に聞くということが彼らにとって当たり前のことになっていくようになります。

1学期に行った「学校生活をよりよくするために」のディスカッションでは、「自分がいじめの被害者になったら親や学校に相談するか」「クラスを良くしていくためには」など、活発な意見交換もあり、みんながクラスをよくしていこうというこころのメッセージも伝わったようです。2学期には、「クールジャパン」「大阪府知事選(模擬投票)」など社会的なテーマにも挑戦しましたが、討論するにはまだまだ自分たちの知識不足も痛感したようです。3学期は、「洋食と和食のどちらがいいか?」「18歳は成人か?」をテーマにディベートに取り組みました。論題に対して肯定・否定の二つの立場に分かれるディベートの厳格なルール、立論や反駁のための資料作成などに向き合う中で、根拠に基づいて発言することの大切さや、メディアリテラシーなど得るものも大きかったと思います。

今後、取り組みから得たものが、彼らの学習を側面から支えてくれると期待しています。昨年得たものを活かして、今年、さらに社会に目を向け、自分たちで課題を見つけていく1年を過ごします。

## 初芝スイミングスクール

小林奈央選手は、今年行われるリオデジャネイロオリンピック日本代表権をかけて、日々過酷なトレーニングを行ってきました。昨日行われた日本選手権兼オリンピック選考会において、オリンピック出場はできなかったものの、100mバタフライ4位、200mバタフライ3位と見事な成績をおさめました。また、秦隆太郎選手は東京オリンピック候補選手として、小林選手と共にオリンピック選考会に出場し、貴重な経験をしてきました。4年後が楽しみです。



3月には春の短期教室を開催し、6月には1ヶ月体験を行う予定です。現在、2歳児から86歳までの幅広い会員が在籍し、ますます賑やかなスイミングになってきています。

## はつしば学園幼稚園

### ◆ひよこ教室

本園では未就園児親子教室「ひよこ教室」を実施しており、毎回定員一杯(30~60名)となっています。そこでは体育遊びやお店屋さんごっこ等、季節に合わせた活動を用意しており、はつしば学園幼稚園の明るい雰囲気を楽しみながら親子で楽しく参加していただいています。2月の発表会ごっこでは手作り衣装を身にまとい「お花の妖精」に変身。楽器を鳴らしながら歌う可愛い姿に、会場は温かい空気に包まれました。



## 平成28年度 合格実績



### 初芝立命館高校

高知大学	1名
立命館大学	137名
慶応義塾大学	1名
同志社大学	2名
関西学院大学	17名
関西大学	13名
明治大学	2名
近畿大学	28名
龍谷大学	19名
京都産業大学	7名
甲南大学	2名
立命館アジア太平洋大学	10名
など	428名合格

### 初芝富田林高校

京都大学	1名
大阪大学	4名
神戸大学	3名
大阪市立大学	7名
大阪府立大学	4名
など国立大学	129名合格 (大学校を含む)
早稲田大学	1名
慶應義塾大学	1名
関西大学	129名
関西学院大学	44名
同志社大学	40名
立命館大学	63名
など私立大学	842名合格
医歯薬系	58名
医学部医学科	16名

### 初芝橋本高校

大阪大学	1名
横浜国立大学	1名
高知工科大学	1名
兵庫県立大学	1名
立命館大学	20名
同志社大学	4名
関西学院大学	4名
関西大学	2名
立命館アジア太平洋大学	4名
東京農業大学	1名
日本大学	1名
立教大学	1名
など	178名合格

### はつしば学園小学校

系列中学校への進学実績	
初芝立命館中学校	5名
初芝富田林中学校	32名
初芝橋本中学校	2名
外部中学校への合格実績	
大阪星光学院中学校	3名
西大和学園中学校	4名
清風南海中学校	17名
清風中学校	6名
四天王寺中学校	1名
など	87名合格

### ひよこ教室

第1回	5月 7日(土)	第5回	11月 19日(土)
第2回	5月 21日(土)	第6回	2017年 3月 4日(土)
第3回	7月 2日(土)	第7回	2017年 3月 18日(土)
第4回	9月 3日(土)	第8回	2017年 3月 18日(土)

要電話予約。詳しくはHPをご覧ください。

### 園庭開放

部屋の遊具で遊んだり、製作や紙芝居・ダンス等楽しいイベントもありますので、ぜひ参加ください!

第1回	5月 7日(土)	第5回	11月 19日(土)
第2回	5月 21日(土)	第6回	12月 17日(土)
第3回	7月 2日(土)	第7回	2017年 3月 4日(土)
第4回	9月 3日(土)	第8回	2017年 3月 18日(土)

### 5月18日(水)リニューアル!

■はつしば学園幼稚園 ホームページアドレス  
<http://www.hatsushiba.ed.jp/kindergarten/>

## 平成28年度 大阪初芝学園 入試イベントスケジュール

### 初芝立命館中学校

5月21日(土)13:30~	オープンスクール・クラブ体験
7月 2日(土)14:00~	第1回入試説明会・授業体験
10月 1日(土)14:00~	第2回入試説明会・入試対策講座
10月23日(日) 9:00~	プレテスト
11月12日(土)10:00~	プレテスト個別相談会
12月10日(土)14:00~	第3回入試説明会・個別相談会

### 初芝立命館高等学校

9月10日(土)14:00~	第1回入試説明会・授業体験
10月15日(土)14:00~	第2回入試説明会・授業体験
12月 3日(土)10:00~、14:00~	第3回入試説明会・入試対策講座

### 初芝富田林中学校

6月 4日(土)9:00~	オープンスクール
9月17日(土)14:00~	入試説明会
10月15日(土)8:30~	プレテスト
10月29日(土)9:00~	プレテスト個別相談会
11月19日(土)9:00~	第1回個別見学会
11月26日(土)9:00~	第2回個別見学会
12月17日(土)9:00~	第3回個別見学会

### 初芝富田林高等学校

10月22日(土)14:00~	第1回入試説明会
11月19日(土)9:00~	第1回個別見学会
11月26日(土)9:00~	第2回個別見学会
12月 3日(土)14:00~	第2回入試説明会
12月17日(土)9:00~	第3回個別見学会

### 初芝橋本中学校

6月25日(土)9:00~	体験入学・第1回入試説明会
9月10日(土)9:00~	第1回プレテスト・第2回入試説明会
9月17日(土)14:00~	御所市 出張入試説明会
10月 8日(土)14:00~	岩出市 出張入試説明会
11月 5日(土)9:00~	第2回プレテスト・第3回入試説明会
12月 4日(日)14:00~	第4回入試説明会

### 初芝橋本高等学校

9月24日(土)9:00~	学校見学会
9月17日(土)14:00~	御所市 出張入試説明会
10月 8日(土)14:00~	岩出市 出張入試説明会
10月29日(土)10:00~	オープンスクール
11月12日(土)14:00~	第1回入試説明会
12月 4日(日)14:00~	第2回入試説明会

### はつしば学園小学校

6月 9日(木)10:00~	第1回オープンスクール(給食試食会)
7月 2日(土)9:35~	第2回オープンスクール(授業体験)
8月21日(日)10:00~	第3回学校説明会・体験入学
10月15日(土)9:20~	第4回学校説明会

**学校見学は  
随時受け付けます。**

各イベントの申込等の詳細は各校HPをご確認ください。

## Editor's Note

「わかる教育・わかる授業」をテーマに11号をお届けしました。これらの授業による子どもたちの変化についてお尋ねすると、先生方は自然と笑顔でお話してくださり、楽しく取材させていただきました。これからの変化についても、とても楽しみにしています。